

【NEWS RELEASE】

2021年12月30日

各 位

株式会社三井住友銀行

株式会社学研ホールディングスに対する「ESG/SDGs評価」に基づく
シンジケート・ローンを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、株式会社学研ホールディングス（代表取締役社長：宮原 博昭）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、株式会社学研ホールディングスに対して行った「ESG/SDGs評価」の趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました、株式会社学研ホールディングスに対する取組に対する評価結果は、環境側面（E）・社会側面（S）およびガバナンス側面（G）すべてにおいて高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、良好な取組と情報開示を実施されているとの評価になりました。

特に、ESGおよびSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

- E：環境問題への意識を高めるテーマ（「異常気象」、「外来生物」など）を題材にした図鑑の発行や、実地での環境教育等を通じて、次世代を担う子ども達に対して環境について考える機会を提供していること。
- S：多世代が支え合いながら暮らし続ける街づくりに資する「学研版地域包括ケアシステム」や、リカレント教育等の提供を通じて、社会保障費の削減や女性の社会進出等の課題解決に取り組んでいる。また、小学生向けの教育サービスをアジアにも展開し、現地の子ども達の学力水準の向上等に貢献していること。
- G：事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指し、学研グループの重要課題（マテリアリティ）を特定（次世代人財の育成、人生100年時代の生涯学習推進、地域における心ゆたかなシニアライフ支援等）している。また、ESGの要素を経営や事業戦略に組み込んでいくため、“ソーシャルアクションマネジメントツリー”を作成し、各事業を通じて環境課題や社会課題に貢献する行動計画の検討を進めていること。
- SDGs：事業活動を通じて貢献するSDGsの重点目標として、「目標3（すべての人に健康と福祉を）」、「目標4（質の高い教育をみんなに）」、「目標11（住み続けられるまちづくりを）」を設定し、多世代が支え合いながら地域の中で安心して暮らせるまちづくり「学研版地域包括ケアシステム」の実現に向けた取組や、人生100年時代

の学習環境づくり等を進めていること。また、教育・医療福祉事業を通じた社会的価値創出への道筋について、CSR レポートや WEB サイト等で情報開示していること。

三井住友銀行では、「E S G / S D G s 評価シンジケーション」および FTSE Russell の E S G 評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。